

TCFD提言に沿った情報開示



# 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

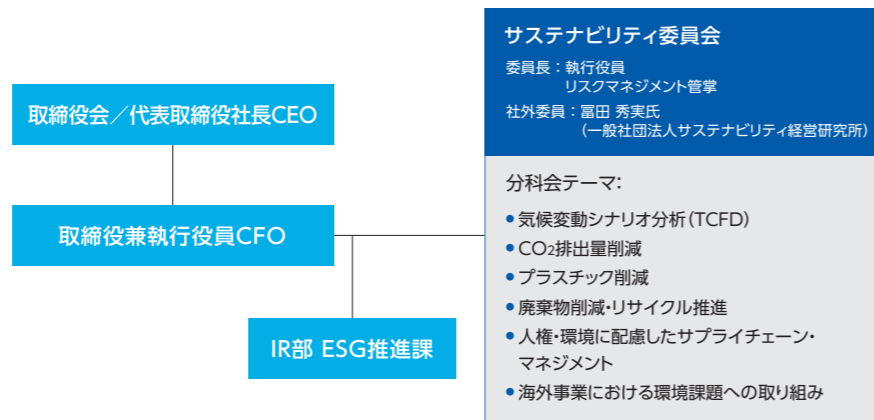
気候変動への取り組みは、PPIHグループの持続的な発展、中長期的な企業価値向上のための重要課題と認識しています。その取り組みを加速し確実なものとするため、2022年2月に「気候関連財務情報開示タスクフォース (以下、TCFD)」に賛同し、TCFDの枠組みに基づいたシナリオ分析と開示を行いました。

〈2022年6月期の活動内容と今後の計画〉

- 2022年6月期に国内リテール事業・食品分野を対象にシナリオ分析に基づく2030年の気候変動リスクと機会の特定を実施
- 今後、食品以外のカテゴリーや海外事業にもシナリオ分析の範囲を広げ、リスクと機会の特定を実施
- お取引先さまとともに環境に配慮したサプライチェーン構築を進め、Scope3におけるCO<sub>2</sub>排出量削減につなげていく

## ガバナンス

気候変動への対応については、リスクマネジメント管掌役員が委員長を務めるサステナビリティ委員会が主導し、TCFDの枠組みに基づいたシナリオ分析、特定されたリスクや機会への対応策検討、CO<sub>2</sub>排出量の削減、廃棄物の削減等の取り組みを推進しています。



## リスク管理

気候変動に関わるリスク対応では、洪水や台風など大規模な自然災害発生時において、事業継続計画 (BCP) を基本とし、さらに当社の経営理念である「権限委譲」により、現場 (店舗) が臨機応変に状況を判断し、迅速に対応いたします。今後、気候変動に関わるリスクの特定、評価及びマネジメントについては、サステナビリティ委員会で実施し、リスクマネジメント本部と問題を共有する体制を整備する等、全社的なリスクマネジメントの中に気候関連のリスクを織り込んでいきます。 → [関連ページ P38](#)

## 戦略

### リスク・機会の特定

PPIHでは、脱炭素社会に向かうための厳しい政策・法規制が実施されることを前提とした1.5℃シナリオと、現在の政策の延長線上にある4℃シナリオの分析を行い、2030年時点の社会環境変化から想定されるリスクと機会を特定しました。今後、どちらのシナリオに向かっても事業継続を担保できるよう対応策を検討していきます。

戦略：前提とするシナリオ【1.5℃シナリオと4℃シナリオ】

## 1.5℃シナリオ (2030年時点)

リスク区分	リスク項目	リスク	機会
移行リスク 政策/規制	温室効果ガス(GHG)排出削減要請	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出規制による店舗運営コスト上昇</li> <li>食品廃棄に関する規制強化によるコスト上昇</li> <li>自然冷媒機器への置き換えで設備費上昇</li> </ul>	—
	炭素価格の導入と引き上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>炭素価格負担による店舗運営コスト上昇</li> <li>商品 (牛肉、乳製品) 調達コスト上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個店経営によるレジリエンスの高いサプライチェーン構築による優位性発揮</li> <li>低価格志向の高まりによるディスカウント業態の顧客拡大</li> </ul>
	脱プラスチック規制の導入 (ワンウェイプラスチック規制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックの容器・包装・販促物を再生可能資源に置き換えることによるコスト上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>POPラミネート供給会社と協働したプラスチック循環型の商品・サービスの仕組みづくりによるコストメリット享受</li> <li>ディスカウント業態を活かした容器包装スリム化商品の開発によるコスト低減と売上増加</li> </ul>
移行リスク 技術	再生可能エネルギーの需要増、技術確立による創出量拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力価格の高騰、電力証書購入によるコスト上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生エネルギー由来電力の早期置き換えによるインセンティブ享受</li> </ul>
移行リスク 評判	ステークホルダー (投資家、取引先、地域社会など)の評判変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報開示が遅れることによる評判低下。資金調達、ブランド力、採用、製品取扱への悪影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層に親和性の高い店舗での若年層をターゲットにしたサステナブルな商品の充実化によるファン拡大</li> </ul>

## 4℃シナリオ (2030年時点)

リスク区分	リスク項目	リスク	機会
物理的リスク 急性	風水災	<ul style="list-style-type: none"> <li>風水災による施設損害、事業停止による利益損害の増加</li> <li>サプライチェーンの被災による事業停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各店舗への権限委譲による災害に対するレジリエンスの確保、生活インフラとしての信頼性のアップ</li> </ul>
	保険料負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>損害保険料の増大</li> </ul>	—
物理的リスク 慢性	気温上昇・高潮	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗運営コスト (冷房費など) の上昇</li> <li>浸水被害の増加</li> </ul>	—
	農業生産性の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>食材の調達費増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水・飲料の需要増加による売上拡大</li> </ul>

## 指標と目標

今回特定されたCO<sub>2</sub>排出に関わるリスクに対応するため、PPIHグループの脱炭素目標を以下に設定しました。

PPIHグループ  
脱炭素目標

2030年までに店舗から排出するCO<sub>2</sub>排出量を**50%削減 (2013年度比)**  
2050年までに店舗から排出するCO<sub>2</sub>排出量を総量で**ゼロ**にする

対象：国内、拠点含む